

F-3:産官学金連携

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 13:50-15:20 B201(2階)

超スマート社会(Society5.0)と地域創生、 そして大学の役割

- ・神戸を舞台に新しい事業を生み出そうとしているいくつかの実証実験レベルの取組を紹介する。そして、それらの取組が超スマート社会(Society5.0)の実現と地域創生にどのように貢献していくかをディスカッションする。
- ・現在、神戸で胎動しつつあるセンサーを使ったネットワークの事例を取り上げる。これらの取組が将来的に「センサーネットワーク事業(仮称)」のモデルとなる可能性、及び、その展望をパネラーから引き出す。
- ・具体的には、都市を構成する施設(店舗・建物、ショッピングアーケード、地下街等)や都市を支えるインフラ(冷暖房、配管パイプ等)等にセンサーが備えられ(IoT)、あらゆるデータを収集し、都市情報プラットフォーム(ビッグデータ)化されることで都市が抱える諸課題を解決する方策について議論する。
- ・また、神戸で実証実験が始まった自動運転の事例についても、センサーネットワークの観点から、その将来像を議論する。
- ・これらの議論の中で、超スマート社会(Society5.0)の実現及び地域創生において、大学が重要な位置付けにあることを浮き彫りにし、大学URAの役割を考える機会を提供する。

オーガナイザー

富田克彦:神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
シニアURA/特命教授



社会実装デザイン部門 超スマートコミュニティ推進室長、シニアURA・特命教授、博士(創造都市)。
松下電器産業(現パナソニック)でeコマース事業カンパニー社長、ネット家電プラットフォーム開発センター所長として松下の新規事業であるネットワークサービス事業を担当。総務省、経産省の情報家電セキュリティ研究会の座長、委員を歴任。
JSTにてサイバー攻撃対策を担当後、神戸大学に赴任。現在、神戸市のスマートシティプロジェクトを展開中。

講演者

鈴木 義康: 株式会社日建設計総合研究所 上席研究員



株式会社日建設計総合研究所 上席研究員。博士(工学)、技術士(総合監理部門、建設部門)。1991年 株式会社日建設計入社、2010年 株式会社日建設計総合研究所へ転籍 現在に至る。
京都大学大学院 工学研究科 非常勤講師(2009年～)
神戸大学 学術・産業連携創造本部 社会実装デザイン部門 特定プロジェクト研究員(2017年～)
専門分野は都市計画・まちづくり、都市交通計画、スマートシティ、スマートコミュニティ。著書に「LRTとまちづくり(学芸出版)」「執筆分担」など。

武藤 一浩:株式会社日本総合研究所 創発戦略センター 次世代交通チームリーダー/シニアマネジャー



1998年3月、明治大学理工学部卒業。同年株式会社日本総合研究所入社。現在、創発戦略センター所属 次世代交通チームリーダー、シニアマネジャー。
先進的な技術の事業化(ベンチャー支援、大企業における新規事業の立ち上げ等)をいろいろとプロデュース。現在は、自動運転領域に注力し、ラストマイル自動運転サービスの事業化に向けた検討や実証実験の実施、民間企業へのコンサルティング活動に取り組む。

長井 伸晃:神戸市 企画調整局つなぐ課 特命係長



関西学院大学卒業後、神戸市入庁。現職では、横断的な政策課題に対し、課題の実態リサーチと関連するステークホルダーとの連携を図り、市民本位の具体的な政策・課題解決につなげるべく、遊撃部隊として活動する。前職の産学連携課では、企業・大学との連携のもとICTを活用した地域課題解決に取り組んだ。
神戸大学学術・産業イノベーション創造本部 非常勤講師、UDC078運営委員も務める。

長廣 剛 :一般社団法人SSCA2.0 代表理事



私が代表理事を務めるSSCA2.0は、十数社からなる一般社団法人で超スマート社会の実現に必要な要素技術を産学官連携で社会導入することを目的の一つに掲げています。
具体的な開発技術として空調起源のCO2排出量の約7割削減をインテックスで実証したサーマルグリッドがあり、この技術は、東京の某地下鉄で導入実証を行っています。
私自身は、建築設備の専門家で阪神大震災の折、旧住都公団(現UR)の震災復興本部に出向し阪神間の再開発・復興に携わりました。